

第2章 地域づくりの基本方向

1 目指すべき地域の姿

急激な人口減少と超高齢化の進行、社会経済のグローバル化など、地域をとりまく環境は大きく変化してきています。また、働き方や生き方に関する様々な価値観に基づきライフスタイルの多様化が進む一方で、地域コミュニティの弱体化等により、世代間や地域間の関係が希薄化してきています。

このような状況の中で、今後、地域社会を維持し発展させていくためには、様々な主体との連携のもと、多様性を認め合い、一人ひとりが生きがい・充実を感じて豊かな生活ができるとともに、東京圏などの都市住民の「地域志向」にも対応した地域の実現を目指していく必要があります。

こうしたことを踏まえ、県内各地域の様々な地域資源、特徴を最大限に活かし、地域産業の活性化、雇用の場の確保、交流人口の拡大などにより、人・もの・情報が活発に行き交う力強い地域づくりに取り組むとともに、大規模自然災害などへの対応力の強化や、医療・保健・福祉の充実、食の安全確保などにより、誰もが安全・安心・快適に住み続けることができる地域づくりを進めていきます。

2 地域づくりを推進していくための視点

目指すべき地域の実現に向け、次の3つの視点に基づき、地域づくりを進めていきます。

(1) 新しい「協働」による地域づくり

人々が支え合い、活気のある地域社会を実現するため、自治体間の連携はもとより、県民、ボランティア、NPO、大学、金融機関など、多様な主体の自発的な参加と連携による地域づくりを推進するとともに、県民一人ひとりが地域との関わりを深めていけるよう、地域づくりの担い手として積極的に参加できる仕組みや、各主体の活動を支援する環境を整備します。

特に、地域の担い手が減少し、コミュニティ機能が著しく低下することが懸念される地域集落については、地域の意向を十分に踏まえ、多様な主体との新たな連携構築を図ることなどにより、生活サービスの維持・強化に努めます。

このように、それぞれの自発性のもとに互いの特性を尊重しながら、これまでになかった主体との様々な分野での多様な連携を深める新しい「協働」による地域づくりを推進します。

(2) 愛着や誇りの持てる地域づくり

自然、歴史、芸術、伝統文化、食などの多様な地域の魅力を発見・理解し、磨き上げ、それを地域間や国内外との交流などを通じて効果的・積極的に発信し、地域の魅力が国内外に広く評価されることにより、県民や地域に関わる人々誰もが愛着や誇りの持てる地域づくりを推進します。

(3) 地域間連携と広域的な視点に立った地域づくり

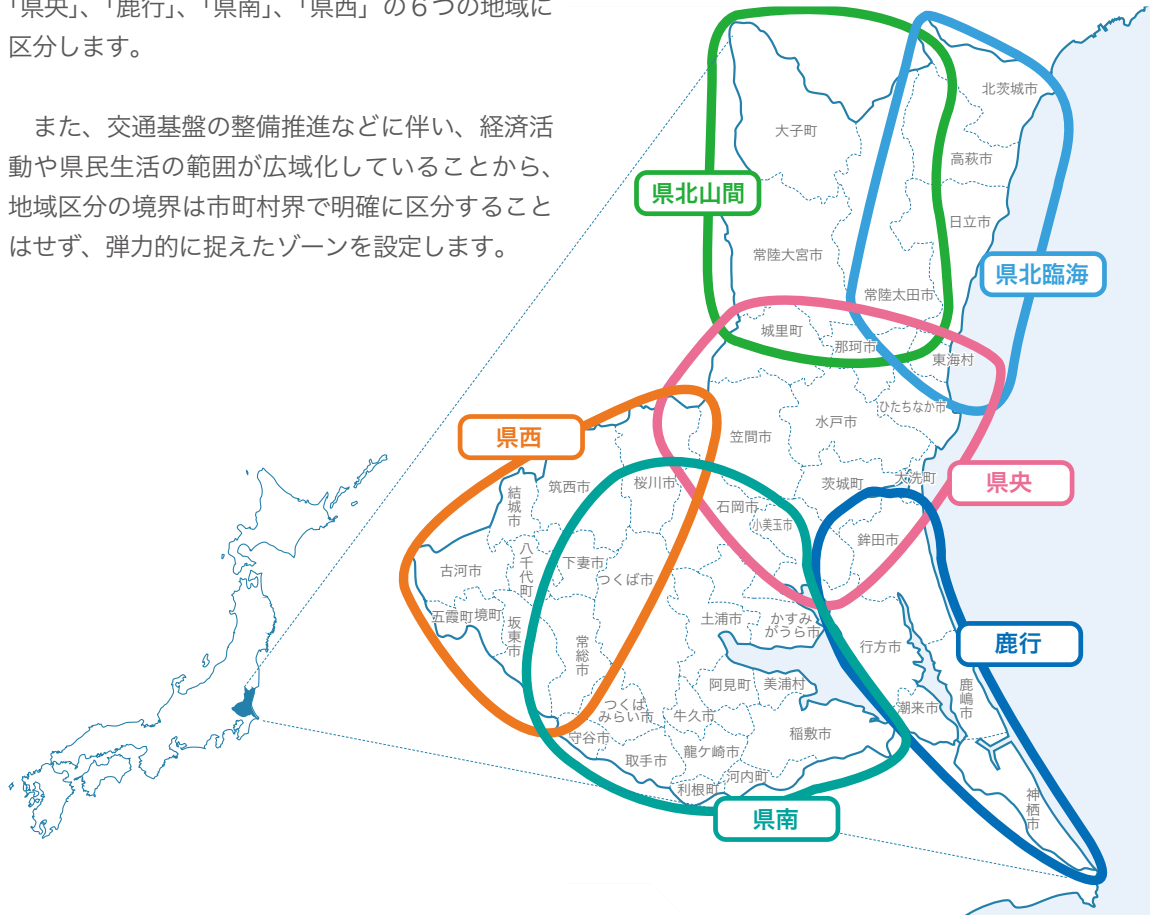
地域医療や公共交通の維持、大規模自然災害等への対応など、多様化・高度化・広域化する行政課題への確かつ迅速に対応していくため、自治体の枠を越えた協力・連携による行政の効率化とサービスの維持・向上を図ることにより、人口減少・少子高齢社会にあっても持続可能な地域づくりを推進します。

また、広域交通ネットワークを活かし、国内外との連携・交流も見据えた広域的な視点に立った地域づくりを推進します。

3 地域区分

地域における地理的条件や歴史的背景、社会経済の結びつきなどを勘案し、地域固有の特性や課題を共有し、一体的な地域づくりを効果的に推進する観点から、県内を「県北山間」、「県北臨海」、「県央」、「鹿行」、「県南」、「県西」の6つの地域に区分します。

また、交通基盤の整備推進などに伴い、経済活動や県民生活の範囲が広域化していることから、地域区分の境界は市町村界で明確に区分することはせず、弾力的に捉えたゾーンを設定します。



4 各ゾーンの将来像と主な取組

県全体に共通する課題である、人口減少対策や医療・保健・福祉の充実、交通利便性の向上、災害対応力の強化などについては、地域の実情に応じながら、前章の「政策展開の基本方向」に基づく施策を着実に展開していきます。

一方、本県は、自然条件や地理的条件、産業・経済面など、地域によって様々な特性を有しており、県民のニーズや行政への期待も地域ごとに異なっています。

ここでは、以下に掲げるとおり、ゾーンごとに2050年頃を展望した将来像に向けて、地域の特性や課題に的確に対応した施策展開の方向を明らかにし、特徴ある地域づくりを進めていくことにより、茨城県全体の魅力・活力の向上に繋げていきます。



(1) 県北山間ゾーン

目指す将来像

- 地域の特性を活かした農林畜産物の魅力ある独自ブランドが確立されるとともに、生活支援サービスの充実や安定した雇用の確保などにより、自立した中山間地域として発展しています。
- 産業・観光の発展や交流促進の基盤となる交通ネットワークが整備され、豊かな自然環境を活かした観光、移住・二地域居住など都市と農村との交流が活発に行われる魅力ある地域が形成されています。

地域づくりの取組

農林畜産業の振興による自立した中山間地域づくり

農業生産基盤の整備や県産材流通・加工体制の整備を推進するとともに、常陸秋そば、常陸牛、奥久慈しゃも、しいたけ、生漆等の農林畜産物のブランド力強化や、新規就農者、定年帰農者など多様な人材の確保・育成、都市と農村の交流等によるアグリビジネスモデルの創出などに取り組むことにより、中山間地域の特性を活かした農林畜産業の振興を図ります。

中山間地域等における生活支援サービス機能の維持

中山間地域等における、生活・交通基盤の充実や、医療・保健・福祉、買い物などの日常生活に不可欠な生活支援サービス機能を維持するとともに、基幹集落の機能強化や複数集落のネットワーク化を図り、住民が安心して暮らし続けることができる環境を確保します。

新たな雇用やワークスタイルの創出

宮の郷工業団地への企業誘致や、新たなビジネス展開への支援などにより地域産業の振興を図るとともに、中山間地域における地理的制約を克服するため、ICT環境の充実などにより、新たな雇用やワークスタイルを創出し、定住人口の確保に努めます。

移住・二地域居住の推進

豊かな自然環境の魅力を活かしたライフスタイル「いばらきさとやま生活」の発信により、地域の認知度の向上を図るとともに、特に、東京圏の住民との継続的な交流促進や空き家等を活用したお試し居住などにより、移住・二地域居住を推進します。

教育・研修旅行など体験交流の推進

久慈川、袋田の滝、竜神峡などの自然、里山、温泉、食など多様な地域資源を活かした、グリーン・ツーリズムやアウトドアスポーツ、教育・研修旅行など体験交流を推進するとともに、農産物直売所・道の駅の活用などによる周遊型観光ネットワークの形成と、FIT構想に基づく、県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。また、「KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭」などを契機に、地域の魅力を国内外に広く発信し、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

(2) 県北臨海ゾーン

目指す将来像

- 高度なものづくり産業をはじめとする産業の集積が進むとともに付加価値の高い産業が発展し、東北地方と東京圏の結節点として新たなビジネス拠点が形成されています。
- 自然災害にも強い安全・安心な生活環境が確保された中で、地域の歴史や芸術、伝統文化に親しむことができる環境が整い、それらを活かした多彩な交流が活発に行われるゆとりと潤いのある生活空間が形成されています。

地域づくりの取組

高度なものづくり産業の振興

中小企業の技術力向上や新製品の開発など経営革新の取組、日立産業技術専門学院でのものづくり人材の育成、高度な技能の継承などを支援し、ものづくり産業等の振興、グローバルニッチトップ企業の育成を図るとともに、起業支援や今後成長が見込まれるクリエイティブ企業等の誘致、シェアオフィスの整備等により、若者や女性などの働く場を確保するなど、新しい働き方ができる環境づくりを進めます。

広域交通ネットワークを活かした産業集積

北関東自動車道や茨城港などの広域交通ネットワークを活かした日立・ひたちなか・那珂地区などへの産業集積や、いばらき量子ビーム研究センターを拠点とした産学官共同研究の推進などを行うとともに、茨城港日立港区におけるLNG基地の整備による新たなエネルギー関連産業の立地を促進します。

地域公共交通の充実など生活環境の整備

医療機関等の連携などによる地域医療サービスの充実や、国道6号バイパスなど幹線道路の整備、鉄道機能の強化、ひたちBRTなど地域公共交通の充実を図るとともに、風評の払拭や大規模災害対策などにも取り組み、安全・安心な生活環境の整備を進めます。

芸術、伝統文化を活用した交流人口の拡大

天心記念五浦美術館や六角堂、赤浜音楽祭、日立風流物、常陸大津の御船祭など多様な資源を活かし、芸術活動の充実と地域文化の振興を図るとともに、「KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭」などを契機に、地域の魅力を国内外に広く発信し、交流人口の拡大を図ります。

県際地域における広域的な交流圏づくり

五浦海岸や花貫溪谷などの自然、食、産業遺産、ジオポイントなど多様な地域資源を活かし、ブルー・ツーリズムや教育・研修旅行など体験交流を推進するとともに、観光客の受入れ体制整備や周遊型観光ネットワーク形成による誘客促進により、観光産業の振興を図るほか、隣接県との連携を視野に入れた県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。



(3) 県央ゾーン

目指す将来像

- 歴史ある県都水戸を中心に、首都圏における国内外の玄関口として人・もの・情報が活発に行き交い、北関東の発展を先導する中核的な都市圏が形成されるとともに、ひたちなか地区など周辺地域との強い連携体制が構築された産業拠点として発展しています。
- 自然、歴史、芸術、伝統文化と産業が複合的かつ魅力的に結びついた、北関東随一の広域観光・レクリエーション地域として発展しています。

地域づくりの取組

北関東の発展を先導する中核的都市圏づくり

県都水戸市やその周辺地域において、市街地再開発事業等の都市基盤整備を促進するとともに、「茨城県央地域定住自立圏」の形成など市町村の特徴を活かした相互の連携・協力体制を推進し、商業、業務、教育、娯楽、医療・保健・福祉等の高次都市機能が充実した安心・快適な生活環境づくりを進め、本県を中心としてだけでなく北関東の発展を先導する、魅力ある中核的都市圏の形成を図ります。

陸・海・空の交通の要衝での産業拠点づくり

陸・海・空の交通の要衝として、茨城港常陸那珂港区・大洗港区、成田国際空港等とも結ばれる東関東自動車道水戸線の整備や茨城中央工業団地への企業誘致など産業基盤の整備・強化を進めることにより、既存の都市機能や企業の集積を活かした北関東随一の産業拠点づくりに取り組みます。

特産品の販路拡大とブランド化

伝統的工芸品をはじめとする地場産業について、デザイン性の高い売れる商品の開発や海外も視野に入れた販路の拡大を図ります。特に「笠間焼」については、笠間陶芸大学校において、次代の産地笠間を担い、世界に大きく羽ばたけるような人材育成により、産地の技術レベルや芸術性の向上等を図ります。また、ほしいも、栗などの特産品のブランド化、養鶏業振興、水産物の消費拡大など、特色を活かした産業振興を図り、地域の活力の維持・向上を図ります。

地域間連携による質の高い観光・レクリエーション地域の形成

日本遺産である弘道館や偕楽園などの歴史的遺産、近代美術館や陶芸美術館などの文化施設をはじめ、ラムサール条約湿地に登録された涸沼などの自然、大洗海岸等でのマリレジャー、ネモフィラやコキアで有名なひたち海浜公園や大型商業施設、笠間クラインガルテン等の農業体験型施設など、この地域がもつ多様な地域資源を活かし、それらを繋ぐことにより、北関東有数の質の高い交流空間の形成を図ります。

広域・国際観光ネットワークの形成

北関東自動車道や茨城港、茨城空港などの広域交通ネットワークにより国内外と結ばれた北関東の玄関口として、近隣都県との連携を図りながら、地域のブランド力の向上や情報発信力の強化を推進し、広域・国際観光ネットワークの形成を図ります。

(4) 鹿行ゾーン

目指す将来像

- 数多くの農林水産物とそれらを活用した高付加価値な商品を提供する、一大食料供給基地としての確固たる地位を確立するとともに、鹿島臨海工業地帯を核として多様な産業が集積した、国際競争力のある産業拠点として発展しています。
- 交通ネットワークの充実など快適な生活環境が確保されるとともに、サッカーやサイクリングなどスポーツツーリズムを核とした国際交流空間が形成されています。

地域づくりの取組

食料供給基地の形成・強化

東京圏に近接し、肥沃な行方台地、霞ヶ浦等を背景に、主要作物であるメロン、ピーマン、かんしょ、豚肉などの安定した生産出荷体制の整備促進や高度な施設園芸の推進、農商工連携による体験型農業施設などの儲かる農業の実現に向けた取組の促進、県栽培漁業センターを拠点としたつくり育て管理する漁業の推進、特産品のブランド化の促進などにより、首都圏における食料供給基地の形成・強化を図ります。

国際競争力のある産業拠点の形成

鹿島臨海工業地帯を核として、地域経済の一層の発展を図るため、素材産業を中心とした多様な産業集積の促進、国際バルク戦略港湾に選定されている鹿島港や東関東自動車道水戸線などの広域交通ネットワークの整備促進、つくば・東海地域と連携した研究開発の促進などにより、生産・物流・研究開発機能が充実した国際競争力のある産業拠点の形成を図ります。

東関東自動車道水戸線沿線地域への新たな産業集積

世界に開かれた鹿島港を有し、東関東自動車道水戸線により成田国際空港や東京圏とも結ばれる地理的優位性を活かした企業誘致の推進などにより、北浦複合団地をはじめとした東関東自動車道水戸線沿線地域への新たな産業集積を図ります。

公共交通の確保や液状化対策など生活環境の整備・向上

豊かな自然環境を活かした産業が育まれている地域で、安全で安心して暮らし続けることができる生活環境を維持していくため、公共交通の確保や医療・保健・福祉サービスの充実、液状化や津波等の大規模災害対策など地域環境の整備・向上に取り組みます。

スポーツを核とした観光交流の推進

鹿島灘や霞ヶ浦等の自然環境の保全や湖沼の水質浄化を進めながら、サッカーやサイクリング、サーフィン、釣りなどのスポーツツーリズムを推進するとともに、鹿島神宮、水郷潮来など伝統ある地域資源を活かした観光の振興を図ることにより、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした国内外から人が集まる国際交流空間づくりを進めます。



(5) 県南ゾーン

目指す将来像

- ロボットやナノテクなどを中心とした世界最先端の研究開発拠点から新事業・新産業が創出されるとともに、科学技術が日常生活に溶け込んだ快適な都市空間が形成されています。
- 安定した水田農業経営の確立や多様なアグリビジネスの発展による特色ある農業が展開されるとともに、自然と都市が調和した魅力的な生活環境や東京圏と結びついた国際交流空間が形成されています。

地域づくりの取組

日本の科学技術を支える拠点づくり

我が国最大の研究開発拠点である筑波研究学園都市の機能強化を図るため、大学や研究機関、民間企業の連携を促進し、ロボットやナノテクなど最先端の研究開発を深化させるとともに、新事業・新産業の創出やベンチャー企業の育成を図るなど、「科学技術イノベーション立国」を支える重要な拠点づくりを進めます。

地域特性に応じたアグリビジネスの推進

広大な水田が広がる稲敷地域、梨・柿・栗などの果樹産地である石岡地域、レンコンの一大産地である霞ヶ浦湖岸など、地域によって特徴のある農業が展開されていることから、農業生産基盤の整備による水田農業経営の安定化や農林水産物のブランド化の強化など、多様化する消費者ニーズに応えられる産地の育成を図るとともに、農商工観光連携による新商品開発や都市農村交流の促進などアグリビジネスの推進を図ります。

自然と都市が調和した魅力的な生活環境づくり

東京圏との近接性を活かし、JR常磐線の東京駅・品川駅乗り入れ本数の増加やつくばエクスプレスの東京延伸等鉄道ネットワークの強化などを図りながら、鉄道駅や高速道路インターチェンジの拠点を活かした新たなまちづくりを進めるとともに、「つくばスタイル」のPRなどによるイメージアップを図り、自然と都市が調和した住みよい魅力的な生活環境づくりに取り組みます。

多様な観光・交流の促進

筑波山・霞ヶ浦などの豊かな自然環境を活かした観光や、アーカスプロジェクト等の芸術、研究機関の集積に着目した教育・学習をテーマにした新しい交流の促進を図るほか、サイクリングをはじめとしたスポーツ・レクリエーション拠点づくりなどに取り組み、魅力ある交流空間の形成を図ります。

国際会議等（MICE）の誘致、国際交流の促進

G7茨城・つくば科学技術大臣会合や世界湖沼会議、東京オリンピック・パラリンピックの開催などを契機とし、更なる国際会議等（MICE）の誘致や国際交流の促進を図ります。

(6) 県西ゾーン

目指す将来像

- 自動車関連産業や流通業などの立地により地域産業が活性化した一大産業拠点と、日本を代表する大規模園芸産地、伝統的な地場産業地域とがバランスよく発展した経済圏が形成されています。
- 広域交通ネットワークが充実し東京圏との連携が強化されるとともに、歴史的街並みや伝統文化の中で、ゆとりと潤いのある生活・交流空間が形成されています。

地域づくりの取組

自動車関連産業や流通業などの立地促進

筑波研究学園都市や東京圏に近接している地理的優位性、首都圏中央連絡自動車道や筑西幹線道路等の整備などを踏まえ、インターチェンジ周辺や沿線地域への産業基盤整備を促進し、集積しつつある自動車関連産業や流通業など多様な企業の立地促進を図り、北関東地域における新たな産業拠点づくりを進めます。

大規模園芸産地の育成と販路拡大

東京圏との近接性を活かし、レタス、ハクサイ、ネギ等全国有数の農作物による大規模園芸産地の育成を促進するとともに、差別化商品づくりによるブランド化や組織的かつ戦略的な販売・PR活動を展開し、海外市場等への販路拡大を図ります。

地場産業の振興

伝統的工芸品である「結城紬」や「真壁石燈籠」をはじめとする地場産業については、デザイン性の高い売れる商品の開発や、海外も視野に入れた販路の拡大、将来を担う人材の育成などによりブランド力の強化を図ります。また、工業技術センター繊維工業指導所を拠点として、大学や国等の研究機関、企業との共同研究を進めるなど、産学連携による新商品開発等を支援します。

交通ネットワークの充実など快適な居住環境の整備

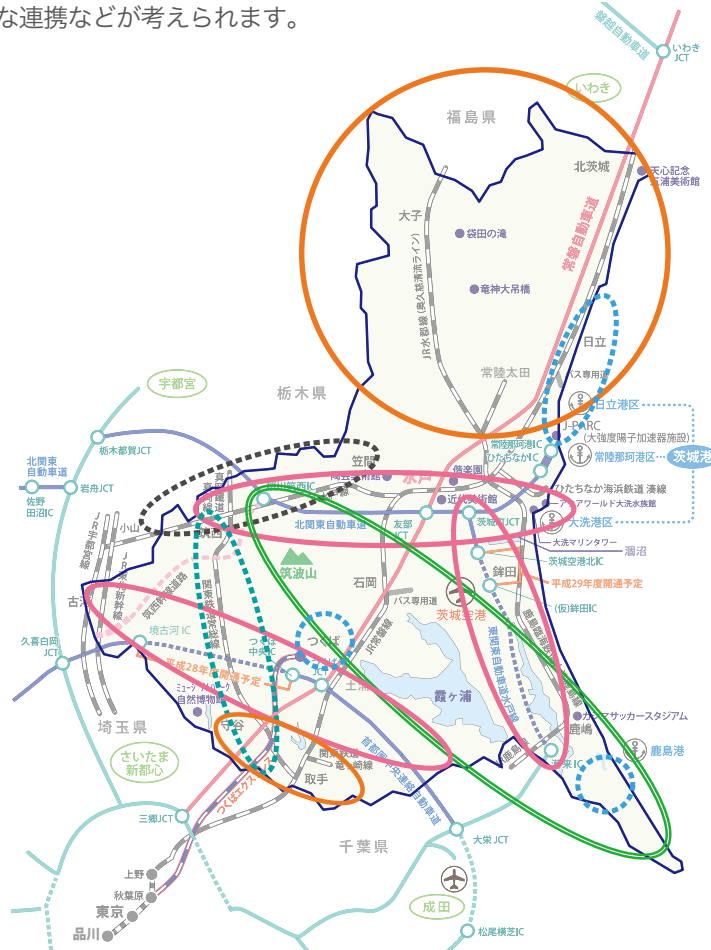
広域交通ネットワークの充実により、災害時も含めた東京圏との連携を強化するとともに、公共交通機関の利便性向上、医療・保健・福祉サービスの充実を図ります。また、「平成27年9月関東・東北豪雨」の経験を踏まえ、自然災害にも強い地域づくりに取り組みます。

歴史的街並みなどの活用による観光・交流空間の形成

重要伝統的建造物群保存地区に選定された桜川市真壁地区をはじめ、古河や結城などの歴史的街並みや史跡等のほか、国名勝に指定されている磯部桜川公園の山桜や、古河総合公園の桃林などの景勝地、鬼怒川、小貝川等の豊かな水辺空間、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、映画やテレビのロケ地など、多様な地域資源を活かした魅力ある観光・交流空間の形成を図ります。

5 ゾーンを横断する取組

交通網や情報通信手段の急速な発達・普及などにより、県民の活動範囲が行政区域を越え、広域的なまちづくりや施策に対するニーズが一層高まってきていることを受け、従来のゾーン区分だけでは完結しない、また、より広域的な連携を図ることで地域の発展につながるゾーンを横断する取組についても積極的に推進し、地域全体の振興を図ります。取組の視点としては、地域産業の振興に向けた連携や、自然環境や芸術、伝統文化などに着目した地域づくり、高速道路や鉄道ネットワークを活用した地域の連携、県を横断する広域的な連携などが考えられます。



【具体的な事例】

【凡例】

<p>■地域産業の振興に向けた連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つくば・東海地区の最先端科学技術をはじめとする知的集積と日立地区のものづくり産業、鹿島地区の素材産業などの産業集積を結びつけたイノベーションの創出 ●伝統的工芸品として国の指定を受けている「結城紬」、「笠間焼」、「真壁石燈籠」の産地が連携した産地の活性化 	<p>■■■■■</p> <p>■■■■■</p>
<p>■自然環境や芸術、伝統文化などに着目した地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筑波山・霞ヶ浦周辺エリアにおけるサイクリング環境の整備 ●KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭、アーカスプロジェクトなど現代アートを活用した地域づくり 	<p>■■■■■</p> <p>■■■■■</p>
<p>■高速道路や鉄道ネットワークを活用した地域の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●首都圏中央連絡自動車道や北関東自動車道沿線の市町村の連携による産業集積及び交流の促進による地域活性化 ●関東鉄道常総線沿線の市町村の連携による鉄道の利用促進や沿線地域の活性化 	<p>■■■■■</p> <p>■■■■■</p>
<p>■県を横断する広域的な連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育遺産の世界遺産登録に向けた一体的な取組の推進（茨城県水戸市、栃木県足利市、大分県日田市、岡山県備前市） ●FIT（福島県、茨城県、栃木県）構想の推進による多様な分野での交流、一体的な広域交流圏の形成 	